

お金のはなしではない

マタイ福音書 25 : 14-30

(そのとき、イエスは弟子たちにこのたとえを語られた。)「天の国はまた次のようにたとえられる。ある人が旅行に出かけるとき、僕たちを呼んで、自分の財産を預けた。それぞれの力に応じて、一人には五タラントン、一人には二タラントン、もう一人には一タラントンを預けて旅に出かけた。早速、五タラントン預かった者は出て行き、それで商売をして、ほかに五タラントンをもうけた。同じように、二タラントン預かった者も、ほかに二タラントンをもうけた。しかし、一タラントン預かった者は、出て行って穴を掘り、主人の金を隠しておいた。

さて、かなり日がたってから、僕たちの主人が帰って来て、彼らと清算を始めた。まず、五タラントン預かった者が進み出て、ほかの五タラントンを差し出して言った。『御主人様、五タラントンお預けになりましたが、御覧ください。ほかに五タラントンもうけました。』主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』

次に、二タラントン預かった者も進み出て言った。『御主人様、二タラントンお預けになりましたが、御覧ください。ほかに二タラントンもうけました。』主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』ところで、一タラントン預かった者も進み出て言った。『御主人様、あなたは蒔かない所から刈り取り、散らさない所からかき集められる厳しい方だと知っていたので、恐ろしくなり、出かけて行って、あなたのタラントンを地の中に隠しておきました。御覧ください。これがあなたのお金です。』主人は答えた。『怠け者の悪い僕だ。わたしが蒔かない所から刈り取

り、散らさない所からかき集めることを知っていたのか。それなら、わたしの金を銀行に入れておくべきであった。そうしておけば、帰って来たとき、利息付きで返してもらえたのに。さあ、そのタラントをこの男から取り上げて、十タラント持っている者に与えよ。だれでも持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。この役に立たない僕を外の暗闇に追い出せ。そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。』」

説教

先週に引き続き天の国のたとえのはなしです。ふつうに聴けばひどい話で、もし天の国がこんな国ならいきたくないよ、とわたしは思います。

ある人が旅にでようとしています。あるしもべには5億円（タラントはけっこうな金額らしいので1タラントは1億円としました）また別のしもべには2億円、またあるしもべには1億円を預けて旅に出ます。5億預かったしもべは10億に、2億は4億にそれぞれ商売で稼ぎました。1億のしもべは穴に隠していたので1億のままでした。彼は主人が戻って来たらこっぴどく叱られ1億円は取り上げられ10億のしもべがもらい、このしもべは11億円長者になりました。

持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。

こんなことが天国では行われているのならいい感じはしません。

これはお金にたとえています。イエスはとくにお金に関心がありこう語っているわけではないはずです。お金がたくさんあれば救われる？そんな下世話なはなしが福音でしょうか。お金にたとえてイエスは救いのみことばを語っているはずです。

5億円だ、2億円だ、1億円ではなく、5筋肉、2筋肉、1筋肉とたとえてみたらどうなるでしょう。5筋肉預けられた人は腹筋やったり懸垂したりして10筋肉になった、お腹の肉ははきれいに割れています。同じように2筋

肉の人も4筋肉になった。でも1筋肉の人はなにもしないので1筋肉のままだった。そうしたら1筋肉は取り上げられてもとの体にもどり、10筋肉になった人は11筋肉になった。

もう一つへんなたとえとして、仮に1億円預かった人がその1億円をつかってリンゴの皮むきの練習をしたとします。練習の成果としてリンゴの皮むきが上手になりました。ご主人様が帰ってきておまえ預けておいた1億円はどうなったと訊ねます。ハイ、リンゴの皮むき練習につかいました。どうぞ見てください、といてリンゴの皮を上手に剥いてご主人様にリンゴを献上します。

この役に立たない僕を外の暗闇に追い出せ。そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。

はたしてこんな言い方でこの1億リンゴ男を追い出したりするのでしょうか。「持っている人はさらに豊かになる」と10筋肉の男に剥いたリンゴと皮をあげるのでしょうか。10筋肉男はきれいに割れた腹筋とリンゴを手に入れ天国で暮らします。リンゴ男はすべてを取り上げられてほおりだされますが、それでも外の暗闇でもリンゴ皮むき名人であることには変わりありません。マタイが伝えるイエスの救いのみことばを、ただのお金のはなしとして解釈すると世界はどんどん悪くなります。みことばを真に受けて、原理的に解釈して5タラントンを10タラントンにすることがみこころにかなうこと、としてしまうとどうしてもお金を増やすことがいいことで、増やせないことは悪いこととなります。金持ちは偉くて賢く、ますます金持ちになり、そうでない人は持っているわずかの金さえ取り上げられてますます貧しくなる。いまの世界の状況に似ています。だれもいまの世界が天の国だと感じていません。神の目からみた富とはお金でしょうか？神の恵みとは通帳の残高でしょうか。そうだお金じゃない、健康こそが大切だ、そう思う方もいるでしょう。仮に筋肉を健康のたとえだとすると11筋肉の男は11健康の男となります。

それが人の望みでしょうか。神が人類に期待していることでしょうか。どうも違うような気がします。

5人の賢いおとめと5人の愚かなおとめに加えて、もう5人のおとめがいたとしたら彼女たちは天国にいけたでしょうか？という問いをだしました。

もう5人のおとめは今日のたとえでいえば、福音には書かれていない1銭も預けられなかったしもべたちでしょう。彼らは10億、4億、1億という気の遠くなるようなお金のはなしとはぜんぜん関係なく、ひょっとしたらご主人が旅に行って戻ってきたことも知らずに日々を暮らしています。

いま、この時を 生きる、これができる人には天国の門は開かれます。ともし火が消えたたいまつを持って出迎えるおとめたちも、1タラントも預けてもらえずに日々を暮らす男たちも、この時を生きている人たちは永遠のいのちへと移される人たちです。
